

# 初年次の体験実習とPBLチュートリアル

昭和大学は医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）の4学部6学科からなる医系総合大学であり、初年次学生は全員が山梨県富士吉田市にある昭和大学富士吉田校舎で全寮制生活を送る。平成17年度までは医歯薬3学部1年生が富士吉田校舎での初年次教育を行い、保健医療学部3学科は横浜キャンパスでの初年次教育を受けており、チーム医療に関する教育は実質的に行われてはいなかった。平成18年度、保健医療学部の初年次教育も富士吉田校舎で行うこととなり、実質的な学部連携教育としてのチーム医療教育が開始された。初年次学生は、学部の壁を越えて共同生活を送り、同時に、学部学科ごとのカリキュラムに加えて、学部連携教育の中で共に学び、将来、患者中心のチーム医療を実践するために必要な豊かな人間性や社会性、価値観や倫理性を習得する、全人的な医療人教育、チーム医療教育を1年間にわたって受けている。本学初年次においては、総履修時間の約60%を学部学科独自のカリキュラムで行い、40%を4学部6学科混成のクラスで授業、実習を行っている。この教育形態は、互いに共通の価値観を持つと同時に、医療人教育の早期から、他学部の学生の考え方を理解し、将来の医療現場での協働、協調に対する態度形成のために行っている。本学における学部連携初年次教育は、医療人のためのヒューマニズム、コミュニケーション、PBLチュートリアル、総合サイエンス臨床実習入門および初年次体験実習の5つのユニットで行い、全てのカリキュラムが、将来のチーム医療の担い手を育成するカリキュラムとなっている。本シンポジウムでは、これら5ユニットの中から、初年次体験実習、PBLチュートリアルを中心に報告する。

## 【初年次体験実習】

平成18年度より4学部6学科の学生に対する富士吉田校舎での初年次教育が開始され、これを機に、講義科目、実習科目などでチーム医療のための医療人教育が漸次開始された。初年次体験実習は、平成20年まで各学部の独自の早期体験実習として行われてきた。各学部独自のカリ

キュラムが織り込まれた実習であり、実施時期も学部ごとに異なっていた。平成18年より学部連携教育カリキュラムに関する検討が本格的に開始され、初年次体験実習は3年の検討の後、平成21年度より、4学部6学科が連携し、チーム医療を強く視野に入れた形で開始された。実施時期は夏休み終了後、後期授業開始までの約3週間。実習内容は、病院実習、高齢者介護施設・支援学校・障がい者支援施設、救急蘇生・外傷救急実習および各学部独自の実習で構成され、学部実習以外は4学部の学生で構成されたグループで、医療チームを意識したグループで実施した。実習の開始前にオリエンテーションを数回行い、実習に関する心構え、態度・姿勢に関する個々の学生に対する自覚醸成を促した後、実習開始2日前よりグループ学習による、実習に関する目標の明確化およびグループとしての目標の共有、実習施設、病院、その他の内容に関する準備学習と情報の共有を行った後に、表1に示すローテーションで実習を行った。また、実習終了後は、各グループの体験内容、実習内容等に関して、学生相互の情報共有、知識の共有を目的とした実習報告会を行い、学生相互の実習成果についての確認、評価を行った。

表1 初年次体験実習予定表

グループ	事前学習		第1期			第2期			第3期			報告会	
	1	2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	午前	午後
1~13	オリエンテーション学習	グループ学習	施設実習			病院実習、救命救急法			学部実習			報告会準備	実習報告会
14~26													
27~39			学部実習			施設実習			病院実習、救命救急法				
40~52													
53~65			病院実習、救命救急法			学部実習			施設実習				
66~77													
78~90	施設実習			学部実習			病院実習、救命救急法						
91~103													
104~115	施設実習			学部実習			病院実習、救命救急法						

## 【PBLチュートリアル】

本学における、PBLチュートリアル教育は、平成19年度より開始された。本学でPBLチュートリアル教育の導入を検討したのは平成16年である。PBLチュートリアル教育が医療従事者教育における問題解決型学習、自己主導型学習にきわめて有用であり、同時にグループディスカッション、情報伝達、情報共有といった、コミュニケーションスキルの向上に最適な学習方略であることが大きな理由である。また、平成18年度に文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」において、「チーム医療の有用性を実感する参加型学習」が採択されたことも大きな契機となっている。初年次におけるPBLチュートリアルは、学生たちがこれまでに受けてきた受動型学習と大きく性質が異なり、また、問題点や疑問点を抽出する作業に殆ど接してこなかったことを勘案すると、単に学生に課題を与えて、“グループで問題を発見し、その解決のために学習、情報伝達、共有し解決する”といった一連の流れ、方法を教授しただけでは実施できない。また、本学においては1学年が4学部で約600名になり、小グループ学習を支援するファシリテータと称する教員もきわめて多数必要となる。さらに、教材となる“シナリオ”の作成などを含め、非常に多くの資源が必要となる。このような準備のために約1年間で費やして、ファシリテータの養成、シナリオの作成などをワークショップ形式で複数回実施した。

PBLチュートリアルは、1グループ8～9名、各グループは必ず4学部の学生が含まれていることを条件にグループの組み分けを行った。各グループには1名のファシリテータが支援者として加わり、ディスカッションの円滑化、進行等に対する相談役として関わる。1つのシナリオで行う授業は、180分を1回のコアタイムとして、問題抽出、疑問点の明確化、問題解決のための学習項目の設定などを行うコアタイム1、自己主導型学習を行った後、学習した内容をグループ内で発表、共有ならびに問題解決のための討論を行い、解決段階まで行うコアタイム2の2回を1単位として実施している。コアタイム1とコアタイム2の間には1週間から2週間の自己主導型学習の期間があり、この間にグループ内で決めた学習項目について、文献検索、情報収集を行い、各学生は学習した内容についてのサマリーを作成する。ファシリテータは、本学で開発した、PBLチュートリアル支援サイトを利用して、学生の学習状況やサマリーの内容等に関して指導を行う。

PBLチュートリアル教育は、本学においては、入学時に学部連携型で始まり、上級学年に至っても、同様に学部連携で実施されている。また、学部毎にも実施されており、初年次に十分にグループ討議、自己主導型学習法、情報検索法などを習得することは極めて重要なステップとなる。

初年次PBLチュートリアルの目的は、シナリオに織り込まれた数々の問題点や疑問点を解決し、知識を習得することは重要であるが、むしろ、学習方法の理解、修得に重点を置いている。上級学年、専門教育への導入学習の一つとして、知識の習得法、情報収集法、コミュニケーション法、プレゼンテーションスキル、アカデミックライティングなど、医療従事者として必要なスキルを習得することに重心を置いて行っている。

本学習法は、本年度で5年目となり、単にPBLチュートリアルとしての学習に留まらず、この授業で習得した技術や態度は、初年次体験実習やその他の教科との連携を図りながら活用されている。

